

## 会社にお金を残したいなら、売上は伸ばすな！

多くの中小企業は、資金繰りに苦しんでいる。たとえ毎年利益が出ていても、なぜかお金が残らないという会社をよく見かける。それには原因がある。会社からキャッシュが流出する2つのことに対処していないからだ。

### ■ お金が残らないのには2つの原因がある

「お金がたまらない！」多くの中小企業の経営者は、いつもお金のことで悩んでいます。

政府の景気対策の効果もあって、日本経済を取り巻く環境は少しずつ改善の兆しが見え始めてきました。しかし、この恩恵を受けているのは大企業が中心です。海外から材料を仕入れ、国内で製品を作って販売するパターンが多い中小企業では、円安によって仕入れコストが上がり、かえって苦しくなっています。おまけに、大企業は業績回復を受けて従業員をどんどん増やしています。その結果、時給を上げて、求人広告をいくら打っても、中小企業には人が集まらなくなっているのです。

「だから、お金がたまらないんだ。仕方ないけど」

こういう発想になりがちですが、そうはならないでください。それよりもなぜお金が貯まらないかについて、考えに考え抜いたことがあるでしょうか。

売上が上がらない、原価が下がらない、労務費が上がり続けている…、実はこれ以外にも会社にお金がたまらない理由があるのです。

「どうして？」と思われた経営者は、これらをコントロールするという発想をこれまで持っていなかった方です。そういう会社にはお金が貯まらなくて当然です。きっと、こう思っているのではないのでしょうか。

「銀行から借り入れたら、その分お金が増える。借りられるだけ借りるべきだ！」

「税金をきちんと払うのが、会社の責任だ。税金を払わないなんて、非国民だ！」

確かに、会社の未来が明るく、お金に不自由しないキャッシュリッチ（お金持ち）な会社は、そういう考えでいいかもしれません。しかし、ほとんどは、そうではないはずです。会社の未来も不確かで、お金も手元に残っていないわけですから。

「借りられるというのは信用の証だ」「納税は会社の使命だ」などと言って、倒産した企業を私は何社も見てきました。

「お金よりもっと大事なものがある」と言われますが、それはきれいごとすぎません。特に、中小企業においては、ミエ、メンツなどどうでもいいのです。大切なのは「お金を残すこと」なのです。

### ■ キャッシュイン（流入）を増やそうと思っはいけない

会社にお金を残そうと思うと、考え方は2つあります。

(1) キャッシュイン（お金の入り）を増やす

(2) キャッシュアウト（お金の流出）を減らす

このどちらかですが、経営者の方とはくに（1）を選ぼうとします。「ここまで会社を大きくしてきたのは、リスクを取って勝負してきたからだ。攻撃は最大の防御だ。勇猛果敢に手を打って、売上を伸ばし、お金を増やせばいいじゃないか！」と考えます。

しかし、これからの日本は国内人口の減少と共に総需要が確実にしぼんでいきます。一方でTPPなどによる自由貿易の拡大、規制緩和の進展によって、海外からライバルが続々と参入してきます。

どう考えても、売上を伸ばすことは難しくなってきます。無理に売上を伸ばそうと、営業マンを投入し、広告宣伝を打って販促費をバンバン使っても、多様化しすぎたニーズを的確にとらえられる保証などどこにもありません。

東北から元気発進！！ワクワク"夢実現"プロジェクト

仮に運よく商品がヒットし、売上が増えたとしても、今度は、在庫の手当、売掛金の増加で、たくさんの運転資金が必要になります。増産のための設備投資も考えなければなりません。

みなさん勘違いされるのですが、売上が増えたからといっても、すぐにお金が増えるとは限らないのです。

つまり、客観的に考えて、(1)は簡単な話ではないのです。

## ■まずお金の流出を防ぐことを考えなさい

これに対して、(2)のキャッシュアウト(お金の流出)を減らすというのは簡単にできます。ですから、これからは、こちらを真剣に考えてほしいのです。

「そんなこと言われなくたって、絞れる経費は絞っていますよ」

「旅費、交通費、消耗品費、交際費など、従業員にはコスト意識を持たせて、経費の節減を徹底させていますよ」

こう反論されるかもしれません。それはそうでしょう。しかし、借金返済と金利支払という2つのキャッシュアウト(お金の流出)について、どれだけ考えてきたでしょうか。この2つは、ちょっと対策を取るだけで、すぐに効果がでます。しかもその効果は、経費をケチケチ削るよりもずっと大きいものなのです。

野球でもサッカーでも、点を取られなければ負けることはありません。

企業経営においても、どうかこの発想で、キャッシュを増やそうと思わずに、無駄なキャッシュアウトを減らすことを考えていただきたいのです。そうすれば、結果的にお金は貯まっていくことになります。

小宮一慶「週末経営塾 DIAMOND Online より」

## ~~~~~抑えておきたい領収書の基礎知識~~~~~

### ●領収書はいつまで保存しておくべきか？

領収書の保存期間は、税法上は7年、商法上は10年となっています。個人で会社を経営している方や、個人事業主の方は商法は関係ありませんので、7年保存しておけば、まず問題ありません。

### ●領収書はレシートではダメか？

結論から言うと、レシートがダメということはありません。昔のレシートは、店名や住所、品名の記載が無いものがあつたため、レシートは証拠書類としては認められませんでした。しかし、近年のレシートは、領収書以上に品目の詳細が印字されているので、証拠力としては、領収書よりも高いのでは？とも言われています。とはいえ、レシートにもデメリットがあります。宛名が記載されていないため、誰が支払ったのかが不明確な書類なのです。逆に領収書は、宛名が記載されているので誰が支払ったのかが明確になるものの、会社にとって必要のない物でも「お品代」として処理できてしまいます。領収書もレシートもメリット・デメリットがありますが、現時点では領収書で処理するのが無難と言えるでしょう。

## 傘のお手入れ

梅雨の時期は憂鬱な気分になりがちですが、お気に入りの傘なら出かけるのがなんだか楽しみになりますね。大切な傘をできるだけ長持ちさせるために、お手入れのコツを紹介します。

まず、傘を開くときは、軽く振って生地をほぐしましょう。使い終わった後の水切りは、傘を下に向けて、やさしく2から3回開閉させるようにして行ってください。

濡れた傘は、風通しの良い日陰で手早く乾かすのもポイント。長時間干したままにしたり、直射日光を当てると、色落ちや繊維をいためる原因になってしまいます。

また、生乾きのまま畳んでしまうと、カビやサビ、バイキンによる臭いの元になってしまうので、これも注意が必要です。



@おばあちゃん

東北から元気発進！！ワクワク"夢実現"プロジェクト